

平成27年度全国学力・学習状況調査の公表に係る教育長コメント

平成27年8月25日

本年4月21日に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が、本日、公表されました。本年度は、悉皆調査としては6回目、抽出調査を併せると8回目の調査となり、3年ぶりに理科の調査も行われました。

はじめに、本県の児童生徒の学力の定着状況については、調査が始まった平成19年度からの経年変化を見ると改善傾向にあります。今後は、児童生徒の学力をもう一段引き上げるために、今回の調査結果を丁寧に分析しながら、これまでの取り組みの質の向上を図り、学力向上の歩みを確実なものとしていくことが肝要であると考えています。

それぞれの校種・教科の状況を見ますと、小学校においては、国語のA問題・B問題、そして、算数のA問題で全国平均を超える結果となっています。特に、国語のA問題では、高知県教育振興基本計画重点プランにおいて設定した「全国平均3ポイント以上」という目標をクリアするまでの結果を得ることができています。

また、中学校は、国語・数学ともに、B問題において、全国との差もわずかですが縮まってきています。ただ、総合点で見ると、国語は2.7ポイント、数学は5ポイント、全国平均を下回る結果となっており、踊り場を脱することができていません。

3年ぶりの実施となった理科については、前回（H24）の調査と比較すると、小学校では改善が見られるものの、中学校においては全国との差が開き、特に、自然現象を科学的に考え、表現することに課題が見られる状況となっています。

次に、質問紙調査については、小学校において、学校の授業時間以外に「1時間以上」勉強している児童の割合は、全国を3.4ポイント上回っています。中学校においても、勉強時間が30分未満の生徒の割合は減少してきており、児童生徒に学習習慣の定着が図られてきていることがうかがわれます。

このことは、児童生徒や保護者の皆様の努力によることは勿論のこと、単元テストや学習シートなどの積極的な活用や放課後を利用した補充的な学習サポートなどの各学校の尽力にもよるものと思います。

ただ、今年度を目指年次としている重点プランの目標は、小学校の国語のA問題を除いて達成できておらず、特に、中学校の学力の改善が停滞している状況については、危機感をもって受け止めることが必要と考えます。今後は、一人ひとりの教員の資質・指導力の向上とともに、各学校において、組織的に思考力や表現力を育む授業づくりが進むよう、市町村教育委員会との連携も強化し、しっかりと取り組んでまいります。

高知県教育長 田村 壮児